

第7回門真市魅力ある教育づくり審議会

(第5回つながりのある教育の創造部会) 議事録

開催日時 平成30年2月6日(火) 午後3時20分～午後4時28分

開催場所 市役所別館3階 第3会議室

出席者 佐久間敦史、小林美鈴、横貫照国、国吉孝、齋藤耕司

事務局 満永教育部長、水野教育部次長、三村学校教育課長、牧菌社会教育課長、黒木教育総務課長補佐、松岡教育総務課副参事

傍聴者 1名

議 事

佐久間部会長

「つながりのある教育の創造部会」を開催させていただきます。

それでは、まず事務局から今回の部会での議題について説明をお願いします。

案件1. 部会の進め方について

事務局(三村学校教育課長)

今回のつながりのある教育の創造部会におきましては、先程、説明をさせていただきましたとおり、「自分の将来を描ける力の育成」、「「ともに学び、ともに育つ」教育の推進」について、討議をお願いします。

討議時間は、現在3時20分でございますので、4時20分頃まで討議いただき、その後、10分の休憩時間を挟み、4時30分には全体会にてまとめの報告をお願いしたいと考えております。

なお、討議の柱といたしましては、部会の次第にもございます通り、「①将来希望する職業に就くために必要な能力の育成に向けた取組について」、「②小学校におけるキャリア教育のあり方について」、「③ともに学び、ともに育つ学校づくりの推進にあたり、必要かつ重要なこととは何か」についての3点で進めていただきますようお願い申し上げます。

佐久間部会長

ありがとうございました。時間も1時間弱なので、今日もざっくばらんにお話を

頂けたらなと思っています。

それでは、まず討議の柱の1点目といたしまして、「将来希望する職業に就くために必要な力の育成に向けた取組について」ということで、先程、キャリア教育等のパワーポイント資料もありましたが、色々な観点からご発言いただけたらなと思います。

まずは、委員の皆さん自身も色々な職業に付かれていますと思いますが、ご自身を振り返ってみて、学校教育が、学校教育だけではなくても結構ですが、この職業に付くと決定した時に教育が果たした役割とか影響した部分とかどういう点があるかをまず聞いていきたいのですが、いかがですか？

まず、私から申し上げますと、私も学校の教員でしたが、やはり担任の教員が大きなロールモデルでした。大学の学生にも聞いてみるとこういう先生になりたかったとか割とそういう動機が多い気がします。反面教師もごくまれにいますが、ほとんどが良い教師に出会ったというのが多いような気がいたします。

すいません、ではまず国吉委員からお願いいたします。

国吉副部会長

それでは失礼します。やはり今話ありましたけども、小学校中学校の担任の先生の影響はかなり大きかったのかなと思います。私個人に振り返ってみて友達に聞かされた時に、教えるということに興味を感じたのが小学校の頃でした。友達が分からないと言うとまた教え方を変えて話をしたり例を変えたりとかいう工夫して、教えるということに興味を持って、今の職業に繋がったかなと思います。

もう1つは大学の選択ですけれども、教育系の大学に入りましたので、それも職業選択に関わったのではないかと思います。ですから大学時代のアルバイトも塾のアルバイトや家庭教師が最終的に、今私を作ったのではないかと思います。以上です。

佐久間部会長

差支えなければですが、国吉委員は元々学校の先生になろうとっていましたか。希望する職業に付いたかどうかなんですが。

国吉副部会長

小学校6年の卒業文集にロボット工学の博士になりたいという思い出がありますので、道が変わったのかなと思います。以上です。

佐久間部会長

ありがとうございます。それでは、齋藤委員、希望する職業に付けたかどうかも含めて今の職業についた影響などについて全般的にお願いします。

齋藤委員

自分自身も門真市の小学校の出身なんですけれど小学校2年生の時の先生の影響が大きくて、こんな先生になりたいなと思ったのがきっかけでした。小学校の先生になりたいと思っていたので、それが実現できたことは、たいへん嬉しいことだと思っています。

中学校、高校と進むにあたって、ずっと小学校の先生になりたかったかというところではありませんでした。他の方にも興味があって、またスポーツであったり物を書くことが好きだったので、スポーツ関係の記者もいいなというに思った時期もありました。でも、やはり小学校の担任の先生の印象がずっと強くて、教育系の大学に進んで小学校の先生になりました。

実際、門真市の小学校の教員になり、その恩師とも再会することができたのですが、自分が教師になったことを凄く喜んでくれました。

佐久間部会長

ありがとうございました。では横貫委員をお願いします。

横貫委員

今美容師をやっていますが、美容師になりたいと思っていませんでしたね。

小学校の時は吉本行くしかないと思っていました。それで親から怒られる時代だったので、何の夢もなく、なりたい職もなくずるずる来て、目立つことがやっぱり好きだったので外見で目立ってやろうということでファッション界もみざしてみたんですが、これも違うなと思って、美容師になろうと思いました。女性が好きだからです。世の中を綺麗な女性でいっぱいにしてやろうと思いました。そういうことで美容師を志していました。でも実は吉本に行きたかったのです。

佐久間部会長

ありがとうございました。もう少し詳しくは後程伺いすることとして、小林委員をお願いします。

小林委員

私は、中学校の時は、看護師になりたくて、高校に行かずに、専門学校に行きたいと担任の先生に相談したが、担任の先生が高校は行っていた方がいいよということでとりあえず高校受験しなさいということで商業高校へ行きました。けれどそこで何もやりたいことが見つけられず、悶々としていたら担任の先生が焦らなくてもいいと。自分のやりたいことは自分で見つけないといけないので、ゆっくり探せばいいよと言われてそのまま卒業してしまいました。

もう就職もできずに家で悶々としていたら叔母が勝手にある企業に面接の書類を送っていて、知らない間に会社の方から、連絡が来て訳も分からないままOLになってしまったという流れです。今は介護の仕事をしています。するつもりは全くなかったんですけど、友達で紹介で、絶対に向いていないと思っていたんですけど

ど、今は、やって良かったと思っています。

佐久間部会長

今小林委員から、高校に行った方が良くからとりあえず高校にという発言もあって、学校の先生が進路指導とかキャリア教育が行われていたのかなという、その辺の学校の先生なり、学校の授業なりが自分の進路に影響したとかその辺のもう少し細かい、詳しいことがありましたら、もう一度お伺いしたいのですが。

あれば結構ですが、国吉委員いかがですか。

国吉委員

高校受験の際のことで、進路を決定する時、中学3年の時、「とりあえず普通科に行きなさい。」という、なぜそういうふうにしたのかは分かりませんが、今から考えるとその当時、自分自身選択する目標なり目的なり夢が定まってないのであれば、大多数が普通科に行って、自分の知見を深めて将来の決定に役立てたらどうかという感じがその担任の先生にはあったのかなと、今振り返って思います。以上です。

佐久間部会長

ありがとうございました。

それでは齋藤委員お願いいたします。

齋藤委員

小学校2年生の担任の先生の影響だったんですけど、その先生は常に子どもと一緒に何でもするという先生でした。その先生と一緒にしたことで一番覚えているのは、劇をしたことです。先生が脚本を作って、クラスみんなで劇を作り上げたということを覚えています。子ども目線の先生で、こんな学校の先生になりたいなと常に思っていました。

佐久間部会長

今日のキャリア教育の話でいくと、子どもの頃の強烈な体験がその後の人生をずうっと決定してしまっているというのは、それもあってもいいんですけども、もう少し高校受験とか大学の進路決定とか、いくつかの段階があるかなと思いますが、そのあたりはどうでした。

齋藤委員

おそらく小学校の6年間はそう思い続けていたと思います。しかし、中学校に入って、部活をしたり、引っ越したりもしたので、他の環境の友達にも出会えて、その中で小学校の先生になりたいという思いがだんだんと興味が違う方に、先ほども言いましたようにスポーツ関係の記者になりたいとか、他の職業にも興味がいった

時はありました。大学を受ける段階になって、小学校の時の原点といいますか、自分の小さい頃から持っていた小学校の先生になりたいという気持ちが強くなりました。その思いを強めたのは、教育実習の経験が一番大きかったかなと思います。

佐久間部会長

はい、ありがとうございます。

先ほど、横貫委員は美容師になろうとは思っていなかったけれど、それでもどこかの段階で、学校教育や職業教育の段階で、その決定をしていくようなことがあったのかなと思うんですが、そのあたり少し具体的なエピソードや覚えていることがあれば、美容師になるにあたり影響した学校教育というような質問なんですけども。

横貫委員

すいません。それが無いのです。ただ小学校の先生は吉本に行きと言っていましたからね。その後は全くないです。自分で決めましたね。

自分は高校卒業して大学を受験し、その後は浪人をしていたんですが、社長になりたかったんですね。でも社長になるには自分がめざしている大学ではちょっと無理かなと思い、美容師なろうと思いました。したがって、特に先生などから影響を受けたということはないですね。

佐久間部会長

もう少し聞けば、例えば図工が得意だったとか、美術が好きだったとかそういう話はありますか。

横貫委員

よく言われますね。手先が器用ですねとか。めちゃめちゃ不器用です。やっていたらうまくなるんですよ。

佐久間部会長

本当にない。はい、ありがとうございました。

では、小林委員も同じ話であればお願いいたします。

小林委員

そうですね。高校の担任の先生が焦るなど言ってくれたのは肩の荷が降りました。と言うのも、卒業が近づくにつれて、どんどんクラスメイトは就職が決まってくじゃないですか。でも私は全然見つからなくて、結構焦っていたんですが、そういう時に担任の先生の一言はすごい楽になりました。そういう状態で叔母は叔母で心配してくれて、勝手に自分の想像を膨らまして勝手に応募しちゃったということなんですけれど、それはそれでまた私に合ってたみたいで、良かったかなと思います。

佐久間部会長

はい、ありがとうございます。それではですね、次の話へ進めていきたいと思いますが、とりあえず高校にとかですね、とりあえず普通科にとか今日の話とは少し遠いような話もちらほらと出てくるわけですが、そういう意味では今の学校は先ほどのスライドであったように職場体験学習を試みたり、地域の人が一番最初のスライドにあったように色々なゲストティーチャーが学校に招かれて、そういう意味では将来像を子どもに作ろうとしているのかそういう教育がたくさんあるように思うんですけど、そのあたり学校側の取り組みについて国吉委員から、具体的にお話しただけならと思います。よろしくお願いします。

国吉委員

中学校の方はもともと専門なので、中学校について話をさせていただきます。今現在門真市の中学校においては大半が1年生の段階で、ゲストティーチャーをよんでいます。職業講話という言い方をしている学校もあります。

色々な専門家、その中には学校によっては、その学校の卒業生が関わっている場合もありますし、そうじゃなくて先生の知り合いを呼んで、来てもらうゲストティーチャーもあります。子どもたちが非常に感動を受けたのがスポーツカーでゲストティーチャーが登場したこと。車の専門家なんです。びっくりしました。消防の方も来ておられました、警察の方も、看護師の方もさまざまな職業の方が話をされたのが子どもたちには非常に印象に残ったのではないかと思います。これも中学1年の段階から職業に興味を持たず手立てではないかと思います。

さらに、中学校2年生では実際に職場にいて、職業体験、職場体験と言っている学校もあります。実際に子どもたちが希望する職種のところに行きまして、そこで実際に仕事をするということで。この際にただ、教師がお膳立てして、すべてやってしまうんではダメだということで、子どもたちが選んで、自分で申し込んで申込書を持って行って、そこで面接を受けて、という先進的なところもあります。大抵がやってるかと思うんですけども。最後に感想等を会社の方から聞いて、それをまた報告書で出します。子ども達は、それで終わりではなくて、帰ってからレポートとして、報告会をし、お互い交流するというので、これが子どもたちに大きな影響を与えてるんじゃないかと思います。

この取組は大分昔になりますけれども、神戸で始まったトライアルウィークというのがあって、あれは1週間あるいはもう少しだけでしたが、その延長線上にこういう流れがあるのではないかと思います。

さらに中学校3年生で実際に自分たちが高等学校あるいは就職をする子どももおります。色々な職種に付く子どももおります。その職業の選択の時期がやってきます。それに1年生でやった経験、体験、2年生で実際仕事をした経験、体験が、実際進路を決定する段階に役立っているのではないかと思います。つまりそこでは自分がどういった仕事につきたいか夢を持って目的を持って、そのためには何が必要かどこの学校いいのか、この実現のためには、どこの道に行けばいいのかという

ことが、子ども達の進路の決定の1つの要素になっているのではないかと思います。中学校専門に話しましたが、小学校専門の方もおられますので、この後また繋ぎたいと思います。

佐久間部会長

ありがとうございます。齋藤委員からもよければお願いします。

齋藤委員

小学校でもゲストティーチャーを呼ぶ機会は多くあります。本校では4年生で先日日ルミエールの方から、プロの音楽家に来てもらいまして、生の演奏してもらいました。音楽室という狭い空間の中で、ほんとに目の前で子どもたちが知っている曲をバイオリンとチェロとコントラバスを使って演奏してくれました。

それから2月末に6年生が社会科の学習で、税のことを学ぶんですけど、そのことについて門真税務署の方が来てくれて、お話をしてくださることになっています。去年の例で言いますと3年生が箕面の昆虫館の方に来ていただきまして、理科の昆虫の学習に関わってお話をさせていただきました。やはり専門家のお話ということもあって、子どもたちは目を輝かして話を聞いていました。また話が終わったあと、お礼ということでお手紙を書くことが多いのですが、なかなか普段文章を書くことが苦手な子どもも、すらすらと文章を書いたりしている様子を見ると、やはり子どもにとっては専門的なお話を聞いたりすることは、すごく貴重な経験だなと思っております。

佐久間部会長

はい、ありがとうございます。

もう1点聞いたんですけど、先ほどキャリア教育の中で、私の大学にもよく子どもたちの修学旅行とか社会見学とか最近よく来るんですけども、大学に行ったり、大学生が来るとかそういうことはないですか。

国吉副部会長

門真市の中学校でそういう取組を盛んに行っている学校もあります。先ほど立命館大学が出ましたけど。

佐久間部会長

それは大学に行くんですか？

国吉副部会長

そうです、はい。

佐久間部会長

大学生が来ることは？

国吉副部長

来てもらうことも以前はあったと思いますが、今現在まだ続いているかどうかということは分かりません。

佐久間部長

はい、ありがとうございます。

今学校側から様々な職場とか職業とか本物の人を呼んでとかいう話がありましたが、横貫委員、そんなことはその頃はなかったですか？

横貫委員

無かったです。

佐久間部長

無かったですか。無かったから、特に影響ありませんとなった感じですか。最近ですか？

齋藤委員

子どもの頃はなかったですね。

小林委員

なかったです。

佐久間部長

分かりました。あったら良かったみたいな感じはしますか。

小林委員

今の門真の子ども達は、とても羨ましいなと思います。

佐久間部長

悩んでいる自分にとって、、、

小林委員

そうですね。色々な選択ができたんじゃないかなと思います。

何になりたいというのは、テレビを見て憧がれてというのが、ほとんどなので、学校から直接こういうのがあるよとかは全くなかったんで、今の門真の子どもはいいなと思います。横貫さんはいかがですか。当時は全くなかったということですが、今みたいなのがあれば、ご意見とかご感想は。

横貫委員

私は、実際にゲストティーチャーをしています。

佐久間部会長

なるほど。

横貫委員

中学校に行って、いろいろなことをやったんですけれども、それなりに何か形になれば良いと思うんですが、去年からはやり方を変えまして、必ずその事業所から一言サインでもいいからってことを書いてあるんですけど、そこにサインと一言書くようにしました、個々にこういうことやね、また明日も頑張っただねみたいな簡単なことを書いていたんですけれど、去年からギャラを書こうと、最低賃金はあると思うんですが、それは関係なく置いておいて、時給例えば300円やと。時給300円やと、6時間で1,800円やとということを毎日書くんです。で、それで最終何ぼもらったか。結局夢でもそうなんですけど、お父さんお母さんにあれ買って、これ買ってというそのお金というのは、こういう行為をして生まれてきたお金だというお金の大事さを説こうかなと思って、そういうふう書いてみたら、生徒達は面白そうな顔はしていましたね。

佐久間部会長

もう一点横貫さんにお伺いしたいのは、前の会議で職場体験学習を受け入れていてというお話をされていましたが、今はゲストティーチャーとおっしゃっていましたが、つまり学校の教師ではない人が子どもに何か教えているとか、学ばせているとか状態だと思いますが、それは何を学ばせているわけですか。つまり学校教育では得られない何かで言うと、それは何だと思えますか？

横貫委員

忍耐。

佐久間部会長

忍耐ですか。あと他にはありませんか。

横貫委員

先ほど離職率の問題があったと思うんですけど、離職率がむちゃくちゃ高いですよ。離職しないような忍耐。これ僕当時その職業選ぶにあたって、何も学校からもう指示も何もない状態ではきましたけど、諦めませんので、やはり。今の子どもは諦める子どもが多いような気がしますね。それが嫌だったんで、美容師っていうのは15年ぐらい前にカリスマ美容師ブームというのが来たんですけど、今ほとんどなり手が少なくなりまして、なので忍耐。どの仕事のそうだと思うんですけど、

良いことばかりではないのです。そこで、いかに耐えられるかどうかが大切だと思うのです。

佐久間部会長

ありがとうございます。

今のようなことでいうと、そのゲストティーチャーとか職場体験等から学ぶ社会に出て必要な力みたいなことを狙っていると思いますが、なんだと思いますか。学校以外の人から学べる今の話のようなものは。

小林委員

学校以外のですか。学校以外といえば、やはり、地域の方から学ぶことが多いと思います。

佐久間部会長

分かりました。では、次の議論もありますので、2点目の小学校のキャリア教育というのがあって、少し今あった話をもう少し具体的に何を学べるのかとか、何を学ばせようとしているのか、あるいは何を学ばせるのが良いのかということをも第2点の議論を進めていきたいので、時間があと30分なので、校区ごとのキャリア教育の計画みたいなものがあるので、資料が事務局で用意されてるみたいなので、資料を配っていただいて、何を学ばせているのかとか、何をしようとするのかみたいなことを、学校側から説明されて、それから市民の委員の方から、それについてご意見をいただこうかなと思います。

この資料は国吉委員と齋藤委員の範疇ですか。それでは説明していただければ、助かります。それでは国吉委員から説明をお願いします。

国吉委員

私は第七中学校区ですので、その資料をご覧ください。

これが中学校区で作っておりますキャリア教育の全体指導計画となります。まずどんなの力をつけたいかというのがありまして、4つ挙げております。人間関係形成、それから社会形成能力こういったものを身に付けたい。先程もありましたけれども、チームワーク、中学校で全体合唱をしているというところ、狭い意味になるかもしれませんが、門真市でもメインというかかなりいい位置にあるんです。あそこの学校だけがずっと続けてきているというのは非常にいいことで、これはチームワークの形成、ようするに社会形成に非常に役立っていると思います。それから2つ目です。自己理解・自己管理能力こういったものを付けるということですね。3つ目が課題対応能力このことがここに挙がっております。4つ目がキャリアプランニング能力ということで、こういった大きな4つの力を付けるためにやっぴいこうということで、先ほど狭義の意味で中学校で職業体験をやっぴいこうということがありましたけれども、あれは非常に狭い意味なんですね。こういったキャリアとい

うのは小学校は小学校で発達段階がありますし、もう一つ幼稚園は幼稚園で発達段階があります。その発達段階に応じたものが必要なので、こういったものをトータル的に作って、系統的に繋げていこうとなっております。

特徴があるものを上げていきますと、例えば小学校の低学年では、まず小学校に入りましたら、学校探検というのがあります。学校の中を色々まわります。どういったものなのか。それから、2年生になりますと校区探検を実施します。非常に大きなものだと思います。それから中学年の大切なものとしまして、先ほど齋藤委員が話されました音楽の出前授業、具体的に申しますとルミエールホールの方から弦楽四重奏かな、来てもらいまして、実際にプロの演奏家による出前授業、アウトリーチ授業を実施しております。子どもたちは聞くだけでなく、演奏をしております。バイオリンを弾かしてもらいました。音がなりました。これはね、感動域だと思います。それから命の授業、実際に専門の方に来ていただいてお話をしてもらって、あるいは命の授業というものがありますので、赤ちゃんの人形を使って、実際に授業をされるというものなのです。それから同じく中学年で大きなものとしまして2分の1成人式というものがあります。普通20歳が成人式ですね。ちょうど10歳が4年生になります。要するに10歳が半分ですね。10年間生まれ育ってきた中で、子どもたちがどういった夢を持ちというところあたりの話をするという大きな行事になっております。こういったものをつなげていって中学校の先ほどのものにつなげていく。最終的には中学校で進路の決定に繋げる。でここで終わりではないんですね。されにその先には高等学校、あるいは専修学校、専門学校、それからあとは大学等もあります。就職等があります。そこにつなげるために段階を追って発達段階を見ながら教育を行っていく、こういったことを実際に行っております。以上です。

佐久間部会長

ありがとうございます。それでは齋藤委員お願いいたします。

齋藤委員

門真はすはな中学校区の全体指導計画になります。門真はすはな校区ではめざす子ども像を再度見直し、3校が集まって、全教職員で決めました。そのめざす子ども像を決めるにあたっては、キャリア教育を意識した上で、定めております。右の4つのABCDのキャリア教育でつけたい力を4つ意識して、未来を見すえて、主体的に学び続ける子ども、たがいに認め合い、つながりを求める子どもというめざす子ども像を定めました。

そのめざす子ども像に向けて、それぞれの小学校中学校で今現在行っていることを整理してまとめております。それぞれの学校で行なっていることが、右の4つの力のどれに当てはまるかということ整理したものです。

現段階では各学校での取組になっているのですが、これを小学校から中学校にか

けて、9年間を見通した取組にしていければと現在考えているところですが、まだそこまでは充分にはいっていないかなと思います。

佐久間部会長

ありがとうございます。

質問とか意見とか横貫さんと小林さんからお願いできますか。

横貫委員

これを全部見させてもらって、今の子ども達は羨ましいです。完璧な人間が出来ますね。そう思いました。

だけど何でユーチューバーになりたいって言うんだろって。それだけ思いました。

佐久間部会長

ありがとうございます。小林委員からも一言あればお願いします。

小林委員

一緒です。羨ましいと思います。いろいろな経験ができるので幸せですね。私の子どもの頃はこうした取組はなかったです。学校で楽しい行事といたら、遠足か運動会が修学旅行そんなものしかなかったように思います。そう考えるといろんな体験をさせてもらっている今の門真の子ども達は、やっぱり羨ましいでうすね。なのにどうしてやる気がないんでしょうか。疑問です。

佐久間部会長

疑問質問が出ましたので、一言ありますか。

齋藤委員

それぞれの取組で子どもの達成感が味わえるような様々な仕掛けを教師の方はしているところです。それがうまくいくかということ、そうでないこともありますし、子どもによってはなかなかそれがフィットしない子もいるのかもしれませんが、けれども、こういう積み重ねが将来自分で社会を切り開いていく力の礎になるだろうと地道な取組の一つ一つかなと思います。

佐久間部会長

ありがとうございます。なかなかすべてがフィットするところはないので。

1点だけ市民委員にお伺いしたいんですけども、本来学校でやることなのか家でやることなのか地域でやることなのかということ、昔は学校でやっていなくて、家でやっていたとか、地域の教育とかでいうと、何かお気づきになったりお考えになったりありますか。

小林委員

そうですねやっぱり今まで家庭でできていたことが、家庭ではできなくなってきたという要素があると思います。やっぱりお父さんお母さんと共働きで子どもに対して、時間を取ってあげられない分できないことがや多くなってきたので、結局学校に頼らないといけないのが現状なのかなと感じました。

佐久間部会長

ありがとうございます。横貫委員お願いします。

横貫委員

学校がこれだけやってもらったらありがたいですけど、親はもういらないのではないかなと思ってしまいます。親は何をすべきなのかを考えることもまた大切でしょう。

佐久間部会長

ありがとうございます。

方向としてはこういう方向ということでまとめさせて頂いてよろしいですか。推進していくということで。

キャリア教育で職場体験とか、職業講話で本物の人に出会って、子どもたちが自分の夢を築いていくということの力になる、そんな教育のあり方みたいなことは今後もどんどん進めていくということで一旦まとめておきますね。

あと 15 分ぐらいなので、最後の 1 点パワーポイントでの説明もありましたけれども、インクルーシブという、言葉が片仮名ばかりで恐縮なんですけども、インクルーシブ教育、ともに学びともに育つ学校づくりの推進ということがテーマになっていますので、そちらの方の議論を最後していきたいなと思っています。

門真市では先ほどの全体の報告でもあったように、障がいのある子どもと外国につながるのある子どもとか、あるいは貧困の子どもとか、厳しい家庭環境の子どもたちもたくさんいて、そういう子どもたちへの教育ももちろん大切にしている、そんな学校作りを推進していきたいということですけども、まずもう少し詳しいデータがあれば議論がしやすいなということで用意していただいているみたいなので、事務局お願いできますか。

はい、ありがとうございます。データの説明を事務局から一言お願いできますか。

三村学校教育課長

2つ挙げております。1つが支援学級在籍児童・生徒ということで、

門真市内は 377 人の児童・生徒が支援学級に在籍をしています。ただし、これは支援学級に在籍している児童・生徒の数であって、当然、発達障がいのある子どもさんで支援学級には入級をしていないとかいう児童・生徒もおります。

2点目は外国につながるのある児童・生徒ということで、今、学校教育課で把握

している児童・生徒の数をここにしております。本市の特徴としましては、ご存じのとおり中国に関わりのある子どもが一番多い状況ではありますが、見ていただいたら分かるように 23 ヶ国、地域にわたってたくさんの子どもの子どもが市内で生活している状況です。これもすべての子どもを網羅しているとはなかなか言い難いところもあります。保護者にとっては明かしていないご家庭もあると思いますので、市として把握しきれていない分もあることを含んでいただいて、ただここに出ている数字としましては 135 人で右と左に四角が最後分かれています、左が国籍、右は国籍は日本であります、外国につながるのあるわり子どもで把握している数です。以上です。

佐久間部会長

はい、ありがとうございます。

もう少し、事前に言っていないので数字が分からないと思いますが、増えているとか増えていないとか、全体の子どもの数は減っていますが、どれぐらいの感じで増えているとか、そういう話をお聞かせいただければ。府内での割合と比べてとか、北河内での割合で比べてとか、分かる範囲で結構です。

三村学校教育課長

しっかりとした数字を用意していませんが、申し訳ありませんが、まず支援学級在籍児童・生徒につきましては、児童生徒全体の数が減少著しい中、支援学級に在籍する児童・生徒数は横ばいか若干増えております。併せて、学級数も増えております。これはやはり保護者の願いとか子どもの特徴とかが理解されてきて、その子に本当に必要な支援、先ほどの話もありましたけども、そういうふうにとって子どものことを考えて、支援学級に入っているという理解をしていただける保護者の方も増えたというのも一つの要因ではないかなと思っております。児童数全体は減っているけれども、支援学級に入居する子どもは微増といえますか増えているというのが現状です。

まずこれが 1 つです。

佐久間部会長

微増なんですか。よく聞くのは私の子どもの頃なんては、ほんとに学校に 2 人とか 3 人、障がいのある子どもがいたけれども、最近では 20 人、30 人いてということを知っていて、いつと比べてみたいなことという、我々の子どもの世代の時と比べて分かりますか？

三村学校教育課長

30 年ぐらい前でしたら、確かにそうですね、私も地方の学校に通っていましたが、そんな感じでしたが、佐久間先生がおっしゃったように今では、大規模校であれば 30 人ぐらい支援学級の方がいるというのが現状です。小さな学校につきまし

てもたくさん、例えばクラスに1人2人いるという状況ですね。ただし、一人ひとりの障がいについては、当然いろいろ違いますので、そういう意味ではさまざまな子どもが入室しているという意味で、増えているというのは明らかに言えると思います。その証拠がクラス数でカッコに 82 という数字が書いてありますが、これは支援学級の数です。かつては、これだけの種別に分けて支援学級を設置することはなかったんですけども、今はこういうふうに種別設置といたしましてその障がいの種類によって学級を設置するという方向に動いております。

したがって、クラス数も増えておりますし、それに伴って、児童生徒の数も正確な増え方が言えなくて申しわけないんですけど、増えているという実態はございます。

併せて外国につながりを持つ児童・生徒という部分ですけれども、これにつきましては本市は、非常に特徴的な部分がありまして、西暦 2000 年前後に、中国からの渡日の方々が大量帰って来られました。それで、渡日児童・生徒がたくさん入ってきたわけです。現状でもこの表を見ていただければお分かりのように、中国につながりを持つ児童・生徒は多いのですが、ピーク時から比べると少し減ってきております。一方、フィリピンに関わりを持つ児童・生徒など、中国以外の国につながりのある児童・生徒が、だんだんと増えてきたというのが門真市の傾向であります。

このように、様々な国につながりのある児童・生徒が多岐に渡って広がってきたというのが現在の特徴だと言えます。以上です。

佐久間部会長

はい、ありがとうございます。

もう少し具体的に学校での様子を支援学級や外国にルーツのある子どもの学校の中の様子とか取り組みとか具体的に教えて頂ければありがたいんですが。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

すいません。今、隣の学ぶ意欲向上部会から 20 分に終了と言っておりましたが、押しているようなので、30 分までお時間欲しいということで申出がありましたので、こちらも 30 分までとして、30 分まで議論していただいて、40 分から全体会ということにしたいと思います。

佐久間部会長

では 20 分までに議論を終わらせてということではなくて、もう少しゆっくり目に議論をさせていただきます。

それでは各学校の取組、子どもの様子も含めて紹介していただければと思います。

齋藤委員

私の学校では支援学級に在籍する児童や外国につながりを持つ児童は、すべてのクラスに1人以上はいる状況です。その子どもの課題に応じた取組ということで、

特別に教育課程を編成して指導しています。基本的にはその学級で他の子どもたちと一緒に日々の学校生活を送っています。支援学級に在籍している子たちが頑張ることによって他の子どももやる気が出たり、逆に支援学級に在籍している子どもも周りの子どもに助けってもらって、より成長できます。やはり支援学級の子どもがいるということも大きいかなと思うんですけども、周りの子どもが優しくサポートする姿をよく見ます。付き過ぎず、離れ過ぎず、下手に手を出し過ぎず、ほんとに上手に子どもたちが接しているなと思います。それは低学年より高学年の方が顕著なので、子どもたちもいろんな友達がいるので、その中でそういったことを学んでいけるのかなと思います。

佐久間部会長

ありがとうございます。国吉委員お願いします。

国吉委員

本校もまず支援学級在籍児童は、そうですね1クラスに1名かそれ以上はおります。という状況で、その子どもがいることでその学級がどう変化するか、これが大きいと思います。例えば先ほどユニバーサルデザインってありましたけれども、なかなか落ち着きを持っていない児童に対しては、今日1日の流れが分かるように、前の方に簡単に書きます。そうすると当然その子どももそれ見て次、何があるか分かり、落ち着きますね。それだけじゃなくて、他の子どもたちも、その一日の流れが分かることによって、落ち着きが出るということもあります。それから最近の掲示物は前方には極端に少なくということで、たくさんのはありますと、やはりそれを見て落ち着きが無くなってしまう状況がありますので、当然その子どもが落ち着かなくなるということは、他の子どももやっぱりそれと同様のことが出てくると思うんです。それを解消するために、掲示物を減らす。これが1人の子どものためにやっているように見えるんだけど、強いてはクラス数全体のためにつながっている。学習につながっているということがあるかと思います。それから外国にルーツを持つ子どもですが、これもそのクラス1つを見ていますと、その子どもがいることによって、やっぱり皆も自分の国とは違う文化に触れるというところあたりで、やはり狭い見識から広い見識に変わるというところで得るもののがかなりあると思うんです。そういったところは学校教育ならではで、できる取組ではないかと思われれます。以上です。

佐久間部会長

ありがとうございます。

国吉委員から教室のそういう配慮の仕方とかをおっしゃっていただいて、齋藤委員からのその子どもいることで周りも成長するんだという話が印象的でしたが、市民の委員の方から、全ての子どもたちがその学校で居心地がいいとか、今クラス作りとか、あるいは先程のプレゼンテーションで言うと環境とかいう言葉も使われて

いて3つの側面からということでしたが、その辺りで全ての子どもが居心地がいい学校とかご意見があれば。具体的にどんな学校があったらいいとかどうあるべきだとか、今こんな学校がいいとか、学校にはこういう問題点があるとか、お気付きの点があればどんな角度からでもいいですので、いかがでしょうか？とりわけ障がいのある子どもと外国につながりのある子どもというのがデータで上がっておりますが。

小林委員

どんな環境であっても、対応できる場合、と対応できない場合が必ずあるので、難しいです。

佐久間部会長

もう少し具体的に言うと。例えばこういう子どもとかいうイメージがあるならお願いします。

小林委員

イメージについては、すみません、少し難しいです。

佐久間部会長

ありがとうございます。すみません、興味のあるご発言だったので、その辺もう少し具体的イメージが分かれば。後で教えてもらおうと議論がしやすいというか、事務局や学校にも聞いてみたり、こんな場合どうしたらいいですかみたいなことを聞きたいなと思っているので。

では、続いて横貫さんもお話しいただけますか。障がいがある子どもや外国につながりのある子どもたちも一緒に過ごしやすい学校の環境なり、設備のあり方とか授業のあり方についての質問ですが。

横貫委員

当時私が子どものときは、そういう環境はなかったんですね。何もなかったと思うんです。次やるからってというようなことが貼ってあったりとか、そういうことはなかったんですけど、周りが次あれあるから用意しときやとかって言う環境ではありましたね。ですから、あるということはそれができない人間にはすごく良いとは思いますが、ある人間からすると考えなくなるんじゃないかなと思うんですね。たとえば、駅は全部点字ブロックですよ。ですけど点字ブロックじゃないところに目が見える人が、手を貸すということも大切ではないでしょうか。そういう人間を育てる環境であった方がいいような気もします。ずっと見ていると横文字ばかりが多くて、もう少し隣の人のことを考えてあげるようなことなのではないのかなと思うんですけど。コミュニケーション能力の課題もそのあたりにあったりするのではないのでしょうか。

佐久間部会長

では、小林委員続けてどうぞ。

小林委員

そのとおりかなと思います。いくら環境を整えていても、合う合わない部分があるし、結局は、できないことがある場合は、できる子どもが助ける、できることを教えてあげるというのも大切だと思うのです。

佐久間部会長

奥の深い意見が市民委員から出たので、学校の先生方も一言ずつお願いできますでしょうか。とはいえ設備も重要なんだとか。とはいえおっしゃるとおり何とか子どもの集団づくりとか関係づくりとかその辺り一言ずつお願いします。

齋藤委員

今お話を聞いていてなるほどなと思う部分も確かにありました。

何もかもお膳立てすることによって、確かにコミュニケーションの部分で、欠如するところがあるのかなとも思いました。先ほど、事務局の東田副参事が説明された、野球場の観戦の台を用意することで、一定以上の環境整備もいろんな人にとって温かいということが必要かなと思うのですが、時には一つしか台がなかったら背の高い人が小さい子どもを肩車するとか、そういったこともあっていいと、お話聞きながら思いました。けれど一定レベルの底上げというか環境を整えることは、いろいろな子どもが暮らしやすい学校生活を送りやすい、という部分では必要だと思います。

佐久間部会長

はい、ありがとうございます。では続いて国吉委員お願いします。

国吉委員

私も非常に痛いところを突かれた感じがします。おっしゃるとおりです。子どもたち一人ひとりがお互いに他の子どものことを考えて、行動し発言できるように、私たちは教育しているつもりなんですけれども、そこまでまだ至ってないのが現状かと思います。今齋藤委員から話が出ましたけれども、先ほどの図を見てもらえませんか。重複しますが我々教師として何ができるかということなんです。例えば、まず、基礎的環境整備というところあたりまではできると思うのです。台を用意するところですね。ではこの大きな大人の方、子どもでもいいんですけども、工夫をして次の絵に移ってください。一番小さな子が2段の台に立っています。中ぐらいの子どもが1段の台に上がっています。大人が台なしの状態になっています。なぜこうなったかということが、多分この中で誰かが提案し、それを行動したことで、この結果となって出ているのではないかと思います。こうした子どもたちを育てた

いと考えております。以上です。

佐久間部会長

ありがとうございます。時間がそろそろ来ていますので。何かもう一言ご意見があれば伺いますけど、なければまとめに入ります。いかがでしょうか。

よろしいですか。後ほど報告するという中身ですけれども、なるべくご意見に沿ってというのですが、討議の柱の1つ目2つ目の将来の希望とかそれからキャリア教育は一貫していますので、ここで議論があったように、平たく言えば今の学校というのが以前と違って、そういうことを積極的にやっているということで、よりそのゲストティーチャーや職業講話の取組、あるいは表で示されたとおり小中で一貫したキャリア教育の指導というのをより推進して行ってほしいというあたりで結論を出したいと思っています。

それからもう1点のユニバーサルデザインとかインクルーシブ教育に関しては、最後の議論が非常に印象的だったので、基本的に障がいのある子どもや外国につながる子どもが地域の学校にいるということは、その方の成長のみならず非常に有効であるということをお前提にしつつ、そして学校としては先ほど両先生方がおっしゃったように基礎的な環境整備は当事者の子どもの最低の安心の保障として必要があるけれども、それ以上に市民委員の方がおっしゃったその子ども同士のつながりに関わりというようなことの教育を何より大切にしていってほしいということでもまとめていこうかなと思っています。

そういうところでよろしいですか。何かずれていればご指摘お願いします。ありがとうございます。では一応これでと思っていますけれども、事務局の方で何かあればお願いします。

事務局（三村学校教育課長）

活発なご議論をありがとうございました。本日の部会の議題につきましては終了いたしましたので、このあとの全体会で佐久間部会長よりご報告いただき、審議会委員全員で共有させていただきたいと思っております。

これで部会は終了させていただきまして、10分程度休憩をはさみますので、40分から全体会をスタートしたいと思っておりますので、約12分後には席にお戻りください。本日はありがとうございました。